

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題・改善が必要な点 改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	10	1	1	各居室だけでなく通路やホールなども活用している。	定員の多さと、幅広い年齢層、子どものストレス耐性などへの配慮が必要であると感じる。
	2	職員の配置数は適切であるか	3	2	7	配置数は適切に運用されている。加配職員の配置を行っている。	個別対応が必要な子どもや、設備的な側面で職員が分散されてしまい今後の課題である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	1	0	手すりや段差などの設備的な部分だけでなく、視覚提示などの環境のバリアフリー化にも取り組んでいる。	定期的な設備点検を実施し、必要に応じて修繕を行うことが必要である。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	8	2	2	毎週会議を実施し、業務改善の提案と検討を行っている。	業務改善後の振り返りには課題があるため、一つの改善に対してフィードバックを経て終結させるようにすることが必要である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8	3	1	事業所評価のフィードバックを職員向けに行っている。	保護者からの貴重な意見を、次に活かしていくことが必要である。次年度に向け会議で検討し改善を図る。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	9	3	0	ホームページ上で公開している。	今年度より、昨年度の比較を行うようにする。職員周知が課題のため、定期的に課題改善が進んでいるかチェックを行う。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	8	3	1	令和5年度受審	今後も3年に1回定期的に受審する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	11	0	1	積極的に外部研修に参加している。	研修中不在となる職員の代替の充実を図ること、研修結果後の報告等全体周知を行っていくことが課題である。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	2	1	アセスメントシートの導入、支援に対しての記録や振り返りを行っている。	支援計画立案から説明承諾までの手順を再確認することと、利用開始前からアセスメントを詳細に活用できる手段を明確にする。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	10	0	2	アセスメントシートの導入と支援記録の入カツールを導入している。	使いやすさや、年齢層などに合わせることで出来るよう定期的にブラッシュアップすることが必要である。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	11	1	0	グループ分けを行い、毎日のプログラムを立案している。	子どもにとって興味関心が高いプログラムを立案することが出来るよう、立案力の向上と付帯工数に掛ける時間の捻出が課題である。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	2	1	季節イベントや、粗大、微細、年齢や課題、特性を意識したプログラムを立案している。	日々の活動については、マンネリしてきているとの意見もあるため、今後新しいことに挑戦できるように工夫する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	3	2	子どもの来所時間に合わせプログラムを構成し支援を行っている。	長期休暇中の居場所支援については、長時間となってしまうため課題である。ゆっくり過ごすことが出来る空間作りなど、コンセプトにより緩急をつけられるようにする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	10	2	0	子どもの課題や必要性に合わせて活動の参加を促している。また、本人に参加の意思を確認するなど意思決定を促す支援を行っている。	子どもの年齢だけでなく、課題や障がい特性に合わせて支援の提供を行うことが今後の課題である
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	1	3	毎日、非常勤も含め全体でミーティングを実施している。	トピックだけでなく全体のケースについての共有を図る時間や記録を閲覧する機会を毎日設けるなどの工夫が必要である。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	8	2	2	送迎等により共有できない場合は、チャット機能等を使用し共有するようにしている。	支援終了後は、長期休暇や土曜日などに実施するにとどまっているため、今日の支援についてのフィードバックする機会を作る必要性がある。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	11	0	1	記録等については、支援ツールに入力している。	記録の内容について、必要な情報とは何か、どれくらい工数を下げて効率的に入力ができるか工夫していくことが必要	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題・改善が必要な点 改善目標
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	11	1	0	6か月に1度以上のケース会議と支援計画の更新を行っている。また、毎週ケース会議を開催し共有を図っている。	事業所のみでなく、教育機関や他事業所連携を行い包括的に評価できるようにする。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	10	1	1	ニーズや課題など総合的な視点で支援する意識を持ち実践している。	地域との交流の機会を設けることが今後の課題。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	10	1	1	定期的な評価のための聞き取りや、相談支援事業所との会議に積極的に取り組んでいる。	児童発達支援管理責任者や管理者のみならず、ケース担当職員の参画も積極的に行えるよう配慮していく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	10	1	1	学校からの便りを保護者より共有しながら活動内容を確認している。また、送迎時等については携帯を所持し、緊急時でも対応できるよう努めている。	学校での生活についての共有、連携は所属している学校によりまちまちとなっているため、今後の課題とし連携を深めていく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4	5	3	現在、医ケア児の受け入れを行うことはできていない。	今後必要に合わせて、体制を見直ししながら是非について検討していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	6	2	4	就学以前の居場所との連携は行えておらず、必要に応じて保護者や相談支援員から共有された資料のみとなっている。	療育センターとの連携の強化を行う必要性はあるため、すこやか福祉センター含め検討していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	4	2	卒業後の居場所について、連携を図ることは実施することはできてない。	今後就労場所などを含め、ナビゲーションブック等課題や強みの共有を適切に図ることができるよう配慮していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	2	4	アポロ園は近隣ということもあり、就学後の居場所としてみずいろを選択される保護者も多いため必要な連携を取っている	今後、療育センターとの連携は不可欠であるため、連携強化を図る
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	3	7	地区懇談会等で、職員同士の交流を図っているが、子どもとの交流の機会は作れていない	今後地域の力を借りながら、子どもたちの居場所の拡充を行う
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	3	4	5	区内に子ども部会がないため不参加な状況である。協議会内の情報は同一法人の相談支援事業所より共有されている	今後報酬改定を受けて、どのように変わるか状況により参画できるようにする。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	12	0	0	送迎や面談時、またメール等を使用し必要な情報を共有しあっている。	情報の整理と、必要な情報を適切に受け取ってもらえるよう工夫をする必要がある。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	5	3	4	今年度ペアレントプログラムを実施。来年度以降も継続して行うことが出来るよう体制の強化を図っている。	指導員の誰もが実施できるよう、スキルアップを目指していく
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8	3	1	契約時の説明以外に加算体制の変更等が生じた場合には適宜案内を出している。	職員誰もが回答できるよう研鑽を深めていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9	3	0	子どもの年齢や課題に合わせた適切な助言をするよう努めている。	地域資源などの情報について、職員間での情報交換や収集などをより一層行っていく必要がある。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	9	3	0	年に2回保護者会を開催。都度必要な情報の共有や、ディスカッションを行う等保護者に役立つ内容を担保できるよう努めている	今後も定期的な開催を行うとともに、職員との交流の機会もできるように模索していく

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題・改善が必要な点 改善目標	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12	0	0	苦情解決窓口や第三者委員の説明など、契約時と掲示にて実施している	苦情について、保護者への周知を徹底するとともに、ポジティブに活用できるよう促していく必要がある
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12	0	0	毎月「みずいる便り」を作成し、保護者に活動の様子などを写真で共有している。	より分かりやすいようレイアウトなどのブラッシュアップを図る
	35	個人情報に十分注意しているか	12	0	0	必要な情報は書庫にしまい管理している。また、メール等で共有する際も個人情報はマスクングした状態で共有を行い配慮している。	今後ICTを進めていく中で、職員のコンプライアンスの意識を強化することが必要である。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12	0	0	事業所内に様々な視覚提示を行い、大人に聞かなくても自らが見通しをもって行動できるよう配慮している。	保護者と情報が共有しやすいツールの開発と、多国籍の保護者にも対応できるよう配慮が必要である。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	8	1	3	地区懇談会や、シンポジウムの開催を通じて地域との連携を深めている。	今後、イベントなど事業所と地域の結びつきを強化できる取り組みを考案していく
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	9	2	1	今年度マニュアルを改定している。改定後保護者へも周知できるように努める	保護者にもわかりやすい記載内容の作成が求められる
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	12	0	0	年に2回の非常災害訓練のほか、今年度は救急救命講習の受講を実施する。	非常災害に備え、想定訓練を組み込むなど備蓄や設備を適切に使用できる訓練も盛り込む必要がある
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	12	0	0	法人内で虐待防止委員会を設立させ、委員会主催の研修を実施している。	定期的な研修以外にも、その時必要な研修を組み込んでいくようにする
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	12	0	0	身体拘束について、事前に会議で協議を行ったうえで保護者に説明、同意を得ている	身体拘束の定義など、定期的に研鑽する機会を設け、職員それぞれが適切に対応できるようにしていく必要がある
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	9	2	1	書式等の準備はできている。また、必要な児童に対して適切な対応ができるよう保護者へ説明を行っている	対応方法について、マニュアルを改めて作成し直し基準を設けていく必要がある
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	12	0	0	適宜記録に残し、毎月分析を行っている	ヒヤリハットのみならず、起こってしまった事なども含め検証を行い設備、環境との改善を図る	

